

大学とはどのようなところ？ 大学で学ぶ意義とは？



PTA総会が開催された四月二十五日(土)、学校公開の一部として、全国の高校の魅力活性化を通じて地域活性化の課題に取り組んでいる、株式会社GGC代表取締役藤岡慎二氏を講師にお迎えし、講演会を開催しました。「答えのない時代に飛びこむ君たちへ」という演題で、隠岐島前高校での取り組みにもふれていただきながら、「大学とはどのようなところか、学ぶ意義は何か」について、わかりやすく講演していただきました。

まず、「英単語帳を売りたい。ここに売り文句のリストがある。どのような順番で行えば売れるか、考えてみよう」との問題が提示され、理論を知っていることの重要性が例示されました。

続いて、隠岐島前高校の改革前の状況を引き合いに出して、こう

いう地域の改革を頼まれたら、皆さんはどうするか？ 答えがない、前例もない、見本もモデルもない。しかしやらないといけない。これからの社会は、このような答えの無い問題がたくさん出てくる。答えがみつからないことに対して、答えを見つければ、自分で課題を設定してテーマをもって、解決策を考え続け研究するのが大学なのです。

新学期がスタートしました

学習にクラブ活動に、充実した高校生活を

平成二十七年の新学期がスタートしました。四月三日(金)に新任職員を迎えて始業式、四月六日(月)には入学式が行われ、新入生が白馬高校での学校生活をスタートさせました。新入生歓迎会やクラブ結成会、応援練習など生徒会の諸行事や学年の研修プログラムを経て、一年生も今後の充実した学校生活へ向けて着実に歩みを進めています。地域の皆様のご期待を胸に刻み、今後とも活気のある開かれた学校づくりに、取り組んでまいります。



4月6日(月) 入学式

今年度迎えた新入生は六十六名(男子二十九名、女子三十七名)。一人ひとりが呼名されて入学許可を受けた後に、新入生代表 水嶋柚希さんは、「入学することができたのは、家族や周りの方々の支えがあったからこそ。新しく出会った仲間とともに、勉強や部活動に精一杯励み、何事にも積極的に挑戦し多くの経験を糧に、自分の可能性を広げていききたい」と力強く宣誓しました。

学校長は、式辞の中で、「白馬高校がこの地に存続し続けることへの地域の期待は高い。このような熱い思いがあることも胸に刻み、学習にクラブ活動に、一人ひとりが充実した高校生活にとりくみ、励まし支えあえる白馬高校を築いていこう」と述べました。

四月三十日(木)に生徒総会が開催されました。活動方針について、生徒会本部、各委員会・クラブからそれぞれ提案があり、承認されました。今年のスローガンは、「挨拶や勉強、規律など日常的なことにとどまらず、ボランティア活動にも当たり前のように取り組む、地域の活性化に貢献したい」との思いが込められています。

生徒会、今年のスローガン

「凡事徹底」～個性が彩る白馬高校～



交流の成果を、学校全体で共有 KAKEHASHI Project 報告会

北米派遣事業参加者十二名(三月に卒業して進学した二名を含む)が、全校生徒・職員、保護者、また一部地域住民の皆さんの参加も得て、報告会を開催しました。

やや緊張した様子も見受けられましたが、長野チームと白馬チームに分かれ、英語でプレゼンテーションを行いました。まず、現地のコミュニケーションイベントで行った日本の魅力を伝えるプレゼンテーションの一部を発表し、現地の高校生やホストファミリーとの交流の様子、今回の事業に参加した感想、そこから学んだことについて、一人ひとりが力強く英語でスピーチしました。

「片言の英語でも通じる。自分から積極的にコミュニケーションをとっていくことが大事」との発言に多くの聴衆も頷き、中身の濃い体験をしたことがよく伝わってきました。

KAKEHASHI Project

北米地域短期派遣事業に参加して

本プロジェクトは外務省の委託事業で、全国の中高生を対象とし、日本の魅力(クールジャパン)を英語でプレゼンテーションしながら発信していく、またアメリカの中高生と交流し、文化や風習について意見交換し合うことを目的としています。

昨年、本プロジェクトに応募し、見事採用となりました。本校生徒12名と引率1名が派遣団として参加してまいりました。

3月17日に東京まで移動し、翌日18日の夕方まで事前研修を行いました。19日夕刻に成田を立ちサンフランシスコ経由でシアトルに渡りました。シアトルには20日から3日間滞在し、現地日本領事館でレセプション、インターナショナルスクールでの交流、文化施設や商業施設(Safeco Field, Museum of Flight, EMP museum, Pike Place Market などの)の見学をしました。

3月23日にアリゾナ州サプライズに移動し、現地 Valley Vista High School で交流しました。本校生徒たちは現地の高校生の家庭でホームステイをし、4日間学校へ通い、一緒に授業を受けたり、

プレゼンテーションを行ったりして交流しました。また、コミュニティーイベントにも参加し、一般市民向けにプレゼンテーションを行いました。

3月26日にはサンフランシスコに移動し、市内の文化施設や商業施設(Golden Gate Bridge, California Science Academy などの)の見学と Menlo School での交流をしました。

3月28日にサンフランシスコからロサンゼルス経由で成田に向かい、29日に帰国し、成田で一泊し30日に白馬に帰りました。

帰国後に振り返り、生徒たちは改めてコミュニケーションツールとしての英語の必要性と、主体的な行動力の必要性、積極的に他国の他人と関ることの必要性を感じたと思います。更に地元から外の世界に出て様々な体験をすることの大切さを実感できたと思います。今後の高校生活を充実させていくために、今回の体験を糧にして頑張ってもらいたいと同時に、周囲の生徒にもどんどんと発信してもらいたいと思います。

英語科 清水 貴弘